

平成24年度 生活介護事業所第2みらい
事業報告

【概況】

今年度は「本人を中心とした支援」をさらに実践していくため、職員体制を2.5対1に整備し、利用者のグループ分けについても障害特性・行動ペースなどに基づき構成、環境を整備し、本人らしい日中活動が過ごせるように努めてきました。また、研修分野では外部研修に積極的に参加(昨年度比195%)し、なかでも利用者支援・介護技術の習得を目的に外部実習を増やし、組織運営と実践のバランスをとりながら「支援の質の向上」に繋がるように努めてきました。しかし前半期は個々への支援が全体に行き渡らず、支援者の連携不足によりかえって利用者を混乱させてしまうこともあり、改めて「支援方法の統一」の重要性が浮き彫りとなり、個別の支援マニュアルの整備や、グループ会議を重ねるなど連携の強化に努めてきました。

1. 利用者の状況ですが、年間を通じ46人で入退所者はなく、出席率は94.7%(昨年同率比)となっており、体調面(腸炎・肝炎治療のため約1ヶ月、2名入院)での欠席以外は長期欠席者を出すこともなくほぼ安定したものとなっています。

2. 生活支援面では、ケアホーム利用者が18名と増え(3名増)、また、ご家族の介護負担などにより、特別送迎(ショート事業所への)数も年々増加の傾向にあります。(昨年度比127%)ホーム数が増えているのにも関わらず、ショート事業所の利用が増えている、ショートのニーズが高いのが現状です。

平均障害程度区分が高い(4.96)利用者支援にはご家族の高齢化に伴う日中一時、送迎・入浴サービスの利用と家族支援とは切り離せない状況です。

こうした現状の中、支援センターとの連携は非常に高いウエイトを占めています。そして支援員には質の向上が求められています。「個人の尊厳を守る質の高い支援」を目指し、他事業所(北摂杉の子会・たちばな園・あいほうぷ吹田・NAGOMI・服部ディ)の協力も仰ぎながら介護技術の習得と利用者本位の支援に繋がるように行ってきました。結果としてはまだバラツキもあり、なかなか反映できてはいませんが、職員が自主的に前向きに支援について意見交換することが出来つつあることには頼もしさを感じています。「共生社会の実現」に向けて支援者の育成は重要であり、支援体制の充実だけでなく中身が伴った支援の実践に結びつくように次代を担う支援者の育成を心がけていきたいと考えます。

個別支援を中心に法人職員が連携し、利用者を全体で支えていくことができるように努力していきたいと思えます。

以上が概略ですが、各項目の詳細については後述のとおりです。

1. 利用者の状況 (平成 25 年 3 月 31 日現在)

(1) 在籍状況 男性 29人 女性 17人 合計 46人
 (平均年齢) 男性 37.65歳 女性 39.29歳 全体 38.26歳

(2) 推移状況 (各月初値) 552/480 年間在籍者数 115% (人) 出席率 94.66% (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
合計	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	552

*平均年齢 38歳 3ヶ月 (20歳から 57歳)

(3) 障害程度区分

①療育手帳 (人)

程度	男性	女性	合計
A	29	16	45
B1	0	1	1
B2	0	0	0
合計	29	17	46

②身体障害者手帳 (重複) (人)

程度	男性	女性	合計	部 位
1級	2			肢体、内部
2級	1	1	2	肢体、平衡機能
3級	3	1	6	内部、言語等
4級	4	5	7	言語・そしゃく
合計	10	7	17	

③障害程度区分 (平均障害程度区分 4.96)

程 度	男 性	女 性	合 計
3	1	0	1
4	5	7	12
5	15	6	21
6	8	4	12
合 計	29	17	46

2. 日課・週間プログラム

【日課】

午前		午後	
9:00～10:00	登所(時差)	13:30～14:20	作業
10:00～10:30	朝の会・体操・更衣等	14:20～15:00	掃除
10:30～12:00	作業	15:00～15:15	休憩
12:05～13:20	昼食・休憩	15:15～15:35	終わりの会
		15:45～	降所(時差)

*班により時間に若干の差異があります。

【週間プログラム】一例(個人により作業時間等プログラムは異なる)

	月	火	水	木	金	土・日
午前	屋外活動	作業 陶芸	作業 公園清掃	作業 音楽療法	作業 織り	余暇支援 休み
午後	作業 ウォーキング	文化クラブ	作業 ウォーキング	作業 機能向上プログラム	クラブ活動	余暇支援 休み

3. 職員体制

- (1) 職員体制 常勤職員： 管理者兼サービス管理責任者 (1)
 生活支援員 (10) 事務兼生活支援員 (0.5×2)
 非常勤職員： 支援員補助 (9) 栄養士 (1) 医師 (1)
 看護師 (1) 作業療法士 (1)
 業者委託： 送迎運転手 (6)・送迎添乗員 (7)
 調理師 (1)・調理員 (2)

4. 建物・設備維持管理

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
空調設備		18						30				
害虫駆除	20		19		20		19		18		18	
E V			14			21			21			26
自動扉	17			18			17			16		

消防設備			13						20			
電気		14		11		12		14		16		13
定期清掃					18						16	

【その他】

- 6月13日 消防設備補修工事
- 8月18日 貯・受水槽清掃作業
- 8月20日 飲料水水質検査
- 1月15日 多目的室アコーディオンカーテン修理
- 3月15日 男子トイレコーキング作業

5. 車両管理・送迎管理等

【修繕等】

- 5月25日 キャラバン：パンクのためタイヤ交換
 - 7月6日 ステップ：車検、補修
 - 7月13日 ハイゼット：車検、補修
 - 7月21日 キャラバン：車検、補修
 - 9月12日 バス：車検、補修
 - 2月1日 セレナ：エンジン部故障のため廃車
- ※セレナについてはH25年度よりリース車へ変更

【車両事故】

- ① 8月14日 ステップ：停車時、先方の車が車庫入れしようとバックして来られ、後方確認不足により、先方の左側後部バンパーと自車の右前バンパーが接触
- ② 8月17日 新キャラバン：車庫入庫の際、発券機横のポールに右側面部を接触
- ③ 10月17日 ステップ：右折の際、左前部バンパーと自転車の車輪が接触
- ④ 1月31日 ステップ：車庫入れの際、後方確認不足により、自車の左バンパーと横の車両の右前が接触
- ⑤ 3月27日 セレナ：車庫入れの際、バックで切り返し時に左側前ドアを縁石壁と接触

*上記5件は、いずれも運転手の不注意によるもので、運転手への直接指導と共に、職員会議でも運転時の留意点として採り上げ、注意喚起に努めた。

【送迎管理】

(1) 通常送迎

マイクロバス（23人乗り）：市内循環（豊中南北部）・朝夕各1便

＊(株)ジャパン・リリーフへ車両管理請負業務として委託

新キャラバン（10人乗り）：市内循環（豊中北部）

桜塚ホーム便（朝2便、夕1便）

キャラバン（10人乗り）：市内循環（豊中北部）朝夕各1便

セレナ（8人乗り）：市内循環（豊中西部）・（豊中東部）朝夕各2便

ステップ（8人乗り）：市内循環（豊中西部）朝夕各1便

＊通常送迎時の運転は、(社)豊中市シルバー人材センターへ委託

＊行事の際には特別ルート及び時刻表に基づき運行した。その他、諸事情による乗降場所の変更などにも柔軟に対応を行った。

(2) 特別送迎

ショートステイ（あすなろ、ひまわり）や歯科の通院など特別送迎を実施。利用延べ回数 1,116回（前年比 127%）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
歯科送迎他	5	3	14	20	9	12	14	20	18	10	13	16
ショート利用回数	73	100	83	80	76	81	82	99	109	59	59	68
合計	78	103	97	100	85	93	96	112	127	69	72	84

前年度と比較し、約27%特別送迎回数が増加(238回)。その原因の一つとして、ご家族の高齢化に伴う長期入院等により、ショートステイを利用される人が増えたことが挙げられる。また、将来的にケアホームの利用を考えておられる人が、同じ日にショートステイの予約を入れていることもある。ケアホームの入居者が増えているにも係わらず、開所以来最高の利用率になったことは介護者の高齢化の影響が推測される。今後についてはこのニーズをしっかりと分析し、短期入所・ミニ入所・自活訓練などの事業展開を検討する材料と位置づけている。

また、歯科送迎については「あしすと」利用によるご家族の負担軽減から、利用回数が増え、利用者の定期的な健診が可能となり、支援センターの存在の重要性を再確認でき、利用者にとっても有意義であったと思われる。

6. 年行事等

月. 日	行事名	行先・場所	参加人数	特記事項等
4. 18	班行事(3階)	鶴見緑地	23	
21	選択余暇	舞洲バーベキュー場	8	ゆっくりグループ
25	班行事(2階)	アミティ舞洲	21	
5. 30	味覚狩り	川西イチゴ狩り	43	
6. 2	選択余暇	妙見クッキングセンター	7	ハイキンググループ
14	グループ行事	ラーメン発明記念館	9	
20		コスモタワー	9	
21		伊丹昆虫館&バイキング	9	
27		カラオケ&外食	5	
28		プラネタリウム	5	
28		ラウンドワン	9	
7. 6	クラブ行事	調理実習	7	茶道
20		リゾ鳴尾浜	20	プールクラブ
27		外食&いぶき	19	リズム体操
8. 13~17	納涼祭	多目的室	44	各Gで実施
9. 1	選択余暇	しいたけランド	7	活発グループ
9. 29	全体余暇	箕面育成園	33	あいあいプラザ祭り
10. 5	第5回合同運動会	豊島体育館	44	合同で131人
21	「さんさんGOGOまつり」	センターひまわり	39	
11. 18~19	一泊旅行	グリーンピア三木	43	
12. 19	クリスマス会	第2みらい・いぶき	45	
1. 17	グループ行事	遊覧船	9	神戸港ベイクルーズ
23		スパワールド	5	弁天町
24		初詣	9	原田神社
31		遊覧船	9	神戸港ベイクルーズ
31		映画鑑賞	5	ココエ尼崎
2. 7		スパワールド	7	弁天町
1. 19	選択余暇	高槻ラウンドワン	13	スポッチャ、ボウリング
2. 27	全体余暇	アクア文化ホール	30	このまちいいなコンサート
2. 22	第7回文化祭	第2みらい いぶき	44	テーマ「みんなで思い出を作ろう」ボランティア20名参加、事前チラシ200部の配布。出演団体含め合計119名

日々の活動に変化をもたせ季節の行事を企画・実行した。余暇支援では豊中市の啓発イベントに参加し交流を深めた。しかし、関係機関との啓発的な余暇が多かったため、地域交流が深まっている実情を鑑み、将来的に「みどりの交流会」などの交流行事の必要性を感じた。選択余暇では選択により少人数で休日を楽しんだ。内容は7つの中から自己選択・決定の機会を持ったため、日頃のメンバー構成以外での活動となり、自主性を尊重する意味でも意義のある企画であり、今後も継続していくが、内容については随時ニーズを見直しして実行していきたい。

7. クラブ活動等

(1) 開催内容

金曜クラブ

- ・ リズム体操：月2回、講師：辻村恵美子
- ・ 音楽：月2回、講師：上村玲子
- ・ 茶道：月2回、講師：関口佳子
- ・ 華道：月2回、講師：高橋美智代
- ・ プール：月2回、講師：なし
- ・ 軽スポーツ：月2回、講師：なし

毎週金曜日（第5金は除く）の午後をクラブの日とし本人の選択による活動を共有した。指導者を外部から招き、支援員以外の関わりを持つことで社会性を養った。茶道・華道、リズム体操については講師を外部より招き、音楽療法の指導については豊中市生涯学習推進部教育振興室の青年教室の枠を利用して講師の派遣依頼をした。その他のクラブについては支援スタッフの企画実施により行った。

火曜クラブ

- ・ 七宝焼き：月4回、講師：なし
- ・ 織り：月4回、講師：なし
- ・ クラフト：月4回、講師：なし
- ・ 園芸：月4回、講師：なし

毎週火曜日、午後を文化クラブの日とし本人の選択による興味の開拓・交流をテーマに活動を共有した。作品展などの出展を中心に達成感に繋がるように目標設定を行った。（かんでんコラボアート出展・文化祭）園芸活動は市の公園みどり推進課にも協力いただき、利用者が市のみどりの交流会で育苗活動をしているSEEDで花壇整備、腐葉土づくり、ポット上げ、水やりなどクラブ以外でも年間を通じ毎日活動を行った。自主管理をされている地域の公園管理者とも交流を深める機会となった。

(2) 障害者青年教室の活用

豊中市教育委員会の補助制度を活用。趣旨は生涯学習の視点から障害のある青年が常に生きる喜びを持ち、社会的教養の向上と自主性・社会性の養成を図ることが目的。1講座3千円を補助。

補助対象2活動実績	陶芸作業	48回288人、
	音楽クラブ	24回452人

8. 健康管理・給食

[健康管理]

- ・健康相談：月2回、希望者が宮澤医師へ相談。相談を受けた内容は連絡帳を通して、家族に報告。
- ・健康診断：6月に山口記念診療所で希望者へ実施。希望に応じて聴力・視力の検査も併せて実施した。
- ・予防接種：11月に山口記念診療所にて37名が接種。
(希望者のみ)

日頃の健康管理と疾病の早期発見に努めた。ノロウイルス等の感染予防の情報提供を適宜行い、感染予防に努めた。施設内での病気、けが等には家族との連携を密にとりながら迅速に対応した。入浴サービスの利用により清潔保持に努めた。服薬についてはマニュアルを作成し、過誤のないように努めた。健康だよりを発行(年2回)し家族への情報提供を行った。

[給食]

- ・委託業者：ナフス(株)へ給食調理業務を委託
- ・給食会議：月1回、委託業者・管理栄養士・法人職員が参加し、毎月の献立について検食簿に基づき意見の交換と確認を行う。
- ・嗜好調査：年2回実施(8月及び12月)
調査結果を給食の献立や肥満対策に反映するように努めた。
- ・食育講習会：今年度は実施せず。(昨年度肥満対象者へ食育講習会2回実施したが、ご家族が負担と感じられたため)次年度については利用者も増加したため試食会からご家族の理解(食による健康管理)を深める機会としたい。

9. 防災

回	月・日	内 容	参加人 数	備 考
1	8. 8	総合訓練(火災)	44人	南消防署立会い 講評及び運搬時の指 導・DVD鑑賞
2	2. 27	避難誘導訓練(地震)	45人	
3	3. 28	総合訓練 (火災)	45人	消火器訓練

- ・非常災害対策として火災・地震を想定した避難訓練を行った。特に総合訓練では施設における避難訓練の位置づけだけでなく、火災を想定できるようにDVD鑑賞（施設での避難誘導）や、職員への避難誘導・運搬の講習・消火器訓練を行い、危機管理意識の向上に努めた。今年度は3回の実施のみ。

★平成25年消防記念日優良自衛消防隊表彰受賞

10. 活動支援の取組み

第2みらいの運営方針、支援方針に基づき24年度の支援を次の通り行った。

個別支援計画を基に日常生活上必要な介護、支援、相談、助言を支援の中心においた。また、障害特性、ニーズに基づいた小グループ化を図り、より個々に適したプログラムを提供できるように環境整備を図った。自己選択できるような機会を設け、以下のサービスを提供した。

看護師による健康管理を行い、身体機能の低下を防ぎ、運動機能の維持・向上に努めるためのプログラムの充実を図った。事業開始時より取り組んだ作業療法士による専門的なりハビリ訓練を支援員も連携し、さらに充実させた。高齢化に伴う介助者の負担軽減のため入浴サービスを引き続き実施した。年間を通じ高い出席率を維持できているので、支援費収入も安定していた。

- (1) 個別支援計画の作成
- (2) 食事の提供
- (3) 身体の清拭
- (4) 入浴サービス
- (5) 身体面の介護
- (6) 生産活動（受注作業、農園、陶芸製品、縫製品他）
- (7) 創作的活動(さをり織り、七宝焼き、園芸、クラフト、その他)

- (8) 身体機能及び日常生活能力の維持・向上のための支援
- (9) 生活相談
- (10) 健康管理
- (11) 訪問支援
- (12) 送迎サービス

(1) 作業支援

個別支援計画に基づき生活支援に主眼を置き、作業時間は個々に減少しているが、利用者のエンパワメントを高める観点から、利用者が興味がある好きな作業行程を模索し、今年度より新規の取引先を開拓（5社）し、内職の工賃収入も前年比10万増（197%）と飛躍的に伸びたが、全体では刻印の減少に伴い（前年比▲30万）、前年度比87%となった。次年度はさらに公園作業の収入が市民団体の自主管理協定を結んでいるため工賃として支給できなくなることや市よりの刻印作業の受注低下も著しいが、この現状を踏まえ、アルミ缶の収益・内職・現状の自主製品だけをあてにするのではなく、利用者のエンパワメントさらにを高めるべく農園作業をより充実し、身近での生産活動と収穫する喜びをテーマに自主製品の比率を増加し、利用者の生活向上に繋がるように安定した工賃収入を確保していく。（次年度目標110万）

屋内作業（★新規開拓先）

- ★「栄華亭」網洗い
 - ★「ガードロック」鍵の部品の袋入れ
 - ★「R&G」検査薬の袋入れ
 - ★「岸田エンジニアリング」鉄板の油ふき
 - ★「ヒノモト商会」ねじ部品の袋詰め
 - 「豊中市障害福祉課」刻印作業
 - 「新谷製作所」バリ取り
- 年間約30万（前年度比 ▲20万）

屋外作業

- 公園清掃（豊中市から委託）農園、アルミ缶回収・つぶし、納品、洗車
- 年間約60万（前年度比 4万）

自主製品

- 陶芸品、ミシン作業他11万（前年度比 1万）

工賃

- 作業収入 約100万（昨年比87%）
- （内訳アルミ缶収入36% 刻印10% その他軽作業19%）

工賃支給実績

※出席給と作業給ともに50%で計算

支給総額 901,389 平均 1,633

月額@1,000~@3,000

年間支給額(個人)最高 27,151 最低 13,508

(2) 生活支援

自立に向けた日常生活のスキルの向上を図る

ケアホームから通所される方が18名、約39%（後期3名入所）と増え、居住の場との連携をとりつつ、自立を促す支援を心がけた。特に排便・入浴の状態把握に努め、家庭・ホームとの連絡ノートを通じて体調・衛生の把握・維持・保持に努めた。

心身の健康を維持するための支援

気分転換を図り、運動機能の低下を防ぐためできるだけ身体を動かすプログラムを取り入れた。作業療法士の専門的なアドバイスを受け、個別に運動機能の強化を図った。特に高齢の方への支援として、通常の作業療法士による活動以外に月に一度服部ディサービスを利用し、交流及び連携を強化した。

入浴サービス

介護者の高齢化に伴う介護負担の軽減及び利用者のニーズの高揚のため、週2回1回3人を限度に私的契約による入浴サービスを行った（後期より週3回に増加）。（24年度利用者 延べ170人月平均14.2人前年度比93.2%）利用料1回400円は個人負担とした。ホーム利用者の増加に伴い、対象者は減少したが、ホーム閉所日にあたる金曜日の入浴を取り入れたため、前年同数となっている。今後の対策としてはホーム閉所日におけるホームヘルパーの自宅派遣など福祉課、支援センター・アシストとの連携のもと費用・利便性の解消を図りたい。

日中一時支援

家族の冠婚葬祭や急な外出で所定の時間に迎えることが困難な場合、時間を延長して支援した。入浴サービス、外食、特別送迎の提供で緊急時は家族支援にできる範囲で応えた。利用料は利用者の個人負担（16時30分以降より30分単位、650円）とし、対象者は豊中親和会の利用者に限った。24年度利用者延べ52名、81.5

時間(前年度比 74%)あしすとの活用により時間数、利用者も減ってきており、制度・個別支援へのニーズの活用が周知されてきている。今後も入浴サービスと同様、あしすとの連携によりガイドヘルパーの利用引継ぎを行い、費用・利便性の解消を図りたい。

11. 広報・地域活動・実習

広報誌「つぼみ」を年2回(24年7月、25年2月)発行し、関係機関に配布した。豊中市や障害者団体の主催する行事に参加、出演した。舞台に上がるため日頃の活動の中でも練習に参加し、交流する中で1つの経験、自信につながった。(今年度は素のままフェスタ未開催のため、さんさんGOGOまつり・文化祭のみに出演)

啓発活動として近隣の学校、福祉施設、障害者団体等との交流を図りながら、豊中市啓発活動委員会の企画・運営に参画した。また、豊中市みどりの交流会活動の運営・企画に積極的に参加(月1回定例他)し、園芸の育苗活動をともに行う中で各地域との連携を図った。

1泊旅行、文化祭については学生・シルバーボランティアに協力いただいた。実習生については新たに歯科衛生士の専門学校より2名受け入れを行った。また、豊中・箕面支援学校より進路先の選考のため年2回、延べ7名の実習生を受け入れた。今後についても虐待防止法の施行・また、地域に愛される、広く開かれた施設づくりを目指すため、また人材育成のため積極的に受け入れを行って行きたい。

12. 苦情解決

施設内に「苦情解決の流れ」・意見箱を掲示・設置しているが、マニュアルどおりの対処を必要とする形での苦情はなかった。利用者、ご家族は日々の連絡帳により施設への意見、要望を伝えていただきその都度対応してきた。内容によっては第3者委員が間に入り、円満な解決を図ることにし、年末に第3者委員会を開き第2みらいで3例の報告をし、助言を頂いた。日々の送迎に関すること・所持品の忘れ物等単純な連絡ミス・確認不足、基本的な把握ミスがあり、事故に繋がらなかったことが幸いと受け止め、深く反省、全体で基本を再確認するとともに支援数の増加に伴う連携の強化の必要性を痛感した。

施設内に「職員行動規範」「倫理要綱」、事務所に新たに「セクシャルハラスメントへの細則」を掲示し、利用者の人権・職場秩序に配慮した対応を心がけ、ひやりハットについては職員会議で確認、事故を未然に防ぐため利用者支援を見直す機会とした。

《今年度実績》

申出者	苦情内容要旨	対応
家 族 2 件	・送迎車の乗せ忘れ	直訴で申出があった。 まず、謝罪をし、確認作業を増加し、再発防止に努めた。
	・衣服管理について 上着に違う人の名前が記入され、支援者が着せて帰らなかった。なぜ名前が記入されているのか？	支援者・ホーム生活支援員に確認。記入者は確認できなかったが、経緯を説明、謝罪し支援者には利用者の所有物には無断で記入しないことを徹底した。
支 援 者 (事故報告)	・移動時の把握ミス 降車時に人数を確認せず、車中に利用者を残したまま移動。いつからいないのかも把握できなかった。	電話で施設に確認あり。一緒に行動していたことを認知。その後捜索を行い車中いることを確認。2名(支援者)で行っていたのにも拘わらず、把握ができなかったことを問題視。当日の終礼で点呼の必要性・事故の危険性を再確認するとともに移動時の職員の配置など基本的なことを再度徹底した。

13. 職員研修・会議等

支援についての研修を最低1回全職員が参加。また、他法人への現場研修を強化(延べ7名)し、自己の支援を振り返る場とした。その他指定研修の他、分掌の担当分野の専門性を高める研修に参加している。(昨年度22回、今年度実績44回) ※法人全体研修除く

今後については職員の熟練度に応じた階層別あるいは専門的研修への参加が必要とともに、研修内容の共有を強化し、日常の支援にさらに活かせることができるようにしていく。

期 日	研 修 名	主 催	テーマ等	場所/会場	参加者
5. 1 6 2 8	第1回福祉職員研修(新任職員)	福祉と人権の研修ネットワーク	福祉サービスの理念・動向	社会福祉会館	山口
5. 1 8	防災セミナー	豊中防火安全協会	救急講習	豊中市消防本部北消防署	大野

6. 5	人材マネジメント セミナー	大阪府社会福祉 協議会	人材が育ち活躍 できる組織を目 指して	社会福祉会館	中村
6. 7	給食サービス食品 衛生研修	大阪府社会福祉 協議会	食中毒予防につ いて	社会福祉会館	友廣
6. 1 3 1 4	サービスマナー セミナー（中級）	大阪社会福祉 研修センター	コーチングスキ ルの活用	社会福祉会館	田中
6. 1 2 1 9 7. 1 3	ファシリテーショ ン入門研修	大阪社会福祉研 修センター	元気になる会議 ホワイトボード ミーティング	社会福祉会館	道家
7. 4 5	福祉職員研修 （指導的職員）	大阪社会福祉研 修センター	福祉サービスの 理念・動向と指導 的職員の役割行 動	社会福祉指導 センター	杉浦
7. 6 1 3	障害児者施設課程 （通所コース）	大阪社会福祉研 修センター	障害者支援の専 門性とはなにか	社会福祉会館	山口
7. 4~5 11~12 18~19	職場留学	第2みらい	現場実習	北摂杉の子会 ジョブサイト よど	関田 高橋 田中
7. 2 8	さをり織り指導者 養成講座	特定非営利活動法 人 さをりひろば	技術研修	手織り塾適 SAORI塾	田村 山口
8. 7	障がい者施設支援 員研修（管理者）	大阪社会福祉研 修センター	福祉支援と管理 者の役割につい て他	社会福祉指導 センター	中村
8. 2 4	障がい者施設支援 員研修（主任等）	大阪社会福祉研 修センター	サービス等利用 計画と今後の個 別支援づくり	社会福祉指導 センター	道家
8. 2 4	法人全体研修会 （第1回）	法人	利用者の高齢化	第2みらい	1 2名
8. 2 9 3 0	施設間留学研修	豊中市内 施設長会	現場実習	NAGOMI	西川
9. 3 1 8	利用者支援の研修 会	大阪社会福祉研 修センター	利用者本位の支 援とは	社会福祉会館	前田
9. 6	障害者虐待防止法 施行に向けて	豊中市健康福祉 部	障害者虐待防止 法の理解と対応	豊中市福祉会 館	中村
9. 2 1	認知症サポーター 養成講座	ゆいあいしん協 会	認知症への対応 について	光研ビル （中桜塚）	田村

10.12	法人全体研修会 (第2回)	法人	障害者虐待防止 法施行に向けて	第2みらい	14名
10.16 23 12.6	身体介護技術研修 実務研修	大阪府	重症心身障害 児・者とは	豊中愛和会 あいほうぶ吹 田	武内
10.18 25 11.7	身体介護技術研修 実務研修	大阪府	重症心身障害 児・者とは	豊中愛和会 たちばな園	田村
10.18 31	福祉職員研修 (新任職員)	福祉と人権の研 修ネットワーク	福祉サービスの 理念・動向につい て	社会福祉会館	内田
10.25 11.29 12.20 1.25	スーパービジョン 実務者ゼミナール	大阪社会福祉研 修センター	対人援助の基本 とスーパービジョ ンの実際	社会福祉指導 センター	道家
11.6	人権・同和問題企 業啓発講座	人権・同和問題 企業啓発講座実 行委員会	人権文化を創造 し、社会に広げる 企業のあり方	大阪国際 会議場	中村
11.12	施設階層別人権研 修	大阪社会福祉研 修センター	矯正施設を退所 した人達の支援	社会福祉指 導センター	山口
12.3 4	福祉職員研修 (指導的職員)	大阪社会福祉研 修センター	施設内の不適切 な対応について	社会福祉指導 センター	前田
12.20	支援者研修	明光ワークス	余暇支援につい て	明光ワークス	関田 内田 中村
1.8 18	職場推進研修	大阪社会福祉研 修センター	これからの福祉 人材育成と職場 研修	エルおおさか	関田
1.9 15	レクリエーション 研修	大阪社会福祉研 修センター	身体活動から自 己実現へ	社会福祉会館	高橋
1.18 2.14 15	大阪府サービス管 理責任者研修	(社)大阪府 社会福祉事業団	<受講分野> 地域生活	ビックアイ 社会福祉会館	杉浦
1.29	第2回特定給食施 設研修会	豊中市保健所	3つのキーワー ドで考える摂食 嚥下障害	豊中市保健所	友廣 西川

1. 3 0	リシクマネジメントに関する研修会	大阪社会福祉研修センター	福祉職場での人権侵害	エルおおさか	道家
2. 6~7	職場留学	第2みらい	現場実習	北摂杉の子会 ジョブサイト よど	武内
2. 1 3	スーパービジョン実務者ゼミナール	大阪社会福祉研修センター	人権について	社会福祉指導センター	道家
2. 1 8 2 6	苦情解決第三者委員研修会	大阪社会福祉研修センター	基礎・実践	社会福祉会館	道家
2. 1 9	コミュニケーションツール学習会	大阪手をつなぐ育成会	アプリの活用法	大阪手をつなぐ育成会	田中 武内 中村
2. 2 0 2 8	福祉専門職講座(施設長等)	大阪社会福祉研修センター	管理職員とは	社会福祉会館	中村
3. 1 2	福祉人材の定着及びスキルアップ研修	大阪手をつなぐ育成会	感情マネジメント	大阪手をつなぐ育成会	内田
3. 1 5	法人全体研修会(第3回)	法人	成年後見制度について	第2みらい	1 3名

会議

会議名	回数	開催期日、構成員等
運営会議	1 2	毎月1回 (管理者・主任)
職員会議	1 2	毎月第1木曜日 (管理者、職員)
ケース会議	1 2	毎月第3木曜日 (管理者、職員)
リーダー会議	1 2	毎月第2木曜日 (主任、リーダー職員)
班会議	1 0	毎月1回 (リーダー職員、担当職員)
給食会議	1 2	毎月1回 (管理者、担当職員)

*その他 所属長会議 (管理者)、市内施設長会議 (管理者)
サービス向上委員会(主任他)家族役員会6回、家族会総会6回

○職員会議

- ・職員間の情報の共有や意志統一を図るため、月1回**職員会議**を実施した。なお状況に応じ、必要な場合は臨時に会議を行った。

- ・職員間の支援のばらつきをなくし、全職員が共通の認識のもと支援していくため月1回ケース会議を行い個別支援計画に基づいた支援が実践できているか検討した。(ケース会議)
- ・全職員で図る前に各班で事前に検討し(班会議)全職員での会議をスムーズに進行するように工夫した。(後期よりグループミーティングを追加)

○その他会議

・サービス向上委員会

みらい、第2みらい、支援センターの連携を密に、双方の交流や協力体制を築き、利用者へのサービス向上を図るため、職員代表による会議を月1回実施した。

・所属長、運営会議

法人及び各施設の運営を統一し、調整・報告を行う為、理事長を中心に管理者・主任が月1回定例で行った。(運営会議)